

# ドルコスト平均法ゲーム (じぶん年金ゲーム)



## 使い方マニュアル



ドルコスト平均法協会

# 目次

## はじめに じぶん年金ゲームとは

### 【1】 プレゼンツールとしての使い方

- ・一番重要！初期設定を型通りに説明する
- ドルコスト平均法の大切な特徴を説明できる

### 【2】 クイズとしての使い方

- ・あらかじめ登録されているクイズを順番通りに使うと、より理解を深めることができる

### 【3】 ゲームとしての使い方

- ・ランダムに表示してゲームをする。一番、盛り上がる

### 【4】 ゲームを使いこなすポイント・注意点

ゲームを体験した  
金融機関の職員の約93%が

金融機関の職員 1005 人中、933 人が  
「積立投資の説明にゲームを使ってみたい」と回答

ゲームを使って  
積立投資を説明したい!!

と答えました!

約 93%

Q. 積立投資の説明にゲームを使ってみたいですか?

はい ..... 93%       わからない ..... 6%  
 いいえ ..... 1%      \*15の金融機関の職員にアンケート

大手銀行、証券会社、保険会社など  
複数の金融機関に続々導入して頂いています!

### ゲーム体験者の声

「価格が上昇し続けてもメリットは大きく出てくること」目に見えて理解できず、  
でよかったです。ドルコスト平均法は価格が下がり続けるとはメリットはあま  
りないかと思っていたので、すごく良いになりました。

積立投資のイメージで「下がったら損をする」という多くの人の誤解を、このゲームで  
簡単に分かりやすく解くことができて、面白かったです。

量の視点を知らず前と知った後では グラフの見方が全然変わり、  
より積立投資の魅力を感じる事ができました。是非、お客さまにも  
お話ししたいと思いました。

「半値になってももうかふ」という話をしてもお客さまは半信半疑だと思  
うが、実際ゲームをしてみると驚かされると思う。「こんなに価額が  
戻らなくても利益が出るんだ!」と、とてもおもしろかったです。

# はじめに

## じぶん年金ゲームは、ドルコスト平均法の特徴を説明し、誤解を解くツール

**【課題】ドルコスト平均法の特徴が全く知られてない。  
ドルコスト平均法を誤解している。**

日本人が持っている3大誤解

- ① 下がったら損をする
- ② 投資の成績は、商品の成績で決まる
- ③ 投資を始めるタイミングが重要

原因:量の視点がないから

**【解決策】ドルコスト平均法ゲームの活用で、ドルコスト平均法の特徴を説明し、広く定着している誤解を解く**

- ・ドルコスト平均法の場合、値下がり=損ではない。買える「量」が増える。
- ・ドルコスト平均法の場合、始めるタイミングは一括投資ほど重要ではない etc

### お客様の持つ「3つの誤解」を解いてますか？

お客様は投資について、「3つの誤解」を持っています。

- 誤解1: 投資した商品が値下がりしたら損をする
- 誤解2: 投資の成績は、商品の成績で決まる
- 誤解3: 投資を始めるタイミングが重要だ

この3つの誤解のせいで、「投資は怖い」「損しそうだから嫌だ」「どの商品を選んでいいかわからなくて、難しい・・・」「騙されそう危険。怖い・・・」と思いついて入っている人が大勢います。

この3点は、ドルコスト平均法には全て当てはまりません。

しかし、残念なことにほとんどのドルコストのアドバイザーは、この「誤解」を解いていません。

あなたは、この3つの投資の「誤解」をきちんと解いてあげていますか？

お客様の誤解を取り除いてあげると、「へ～！」「ほ～！」「知らなかった！」と喜んでくれます。

そこから自然にドルコスト平均法に興味が高まり、実践してみたくになります。

それだけでなく、お友達や同僚、ご家族にも「これ、知ってる？」と話したくなるのです。

「うちの従業員、これ知らないから、勉強会してくれませんか？」という依頼も沢山いただけます。

また、お客様のフォローも格段に楽になります。値下がりしても怖くなくなるからです。

お客様が安心して続けてもらえれば、それはアドバイザーにとっても安心です。

ドルコスト平均法ゲーム(じぶん年金ゲーム)を使えば、お客様が持つ「3つの誤解」を簡単に解くことができます。

誰でも、どこでも(タブレットでも可能)、気軽にドルコスト平均法の特徴を楽しく教えて、お客様に喜んでくれます。

ゲームを用いてプレゼンすると、お客様が喜んでくれるので、アドバイザーの方も嬉しくなり、自信が付き、さらに教えたくくなります。

ゲームのユーザーの方から、日々「お客様に喜んでくれました！」「投資嫌いの人が、やってみたい！と言ってくれました！」等嬉しいご報告をいただいています。

### まずは、超重要なプレゼンの「型」をマスターしよう！

このゲームは、大切なプレゼンの型があります。

プレゼンの「型」とは、ゲームに入る前に行う説明のパターンです。

「型」なので再現性が高く、誰でもいつでも同じ様に、ドルコスト平均法の特徴やリスクをきちんと説明できるのです。

この「型」通りにプレゼンしていただければ、しっかりとドルコスト平均法の特徴を理解してもらえます。

そして、この「型」プレゼンをしてドルコストの基礎を学んでいただいた後に、「ゲーム」をするとお客様の理解がより深まり、楽しんでいただけるのです。

このゲームでもっとも大切なのは、プレゼンで利用する「型」です。

一度「型」を覚えれば、いつでもどこでも、好反応なプレゼンが可能になります。

このプレゼンの型は、私1人で作成したものではありません。

最初は使い方も、ルールも今とは全く違うものでした。

しかし、ゲームのユーザーの方から沢山の声をいただき、現場で使いやすく、お客様にも理解してもらいやすい様に何段階もアップデートを繰り返しました。

その結果、(現時点では)最も完成度が高いドルコストプレゼンの「型」が生まれたのです。

その型をマスターすれば、誰でも最高品質のドルコストプレゼンができるようになります。

あなたも、このマニュアルや使い方動画をみて、お客様に積極的に活用してみてください。

きっと、お客様が喜んでくれるのが楽しくなり、ドルコストを教えるのが大好きになるはずですよ。

1人でも多くの人にドルコストを教えて、将来お金で困る人を減らしましょう！

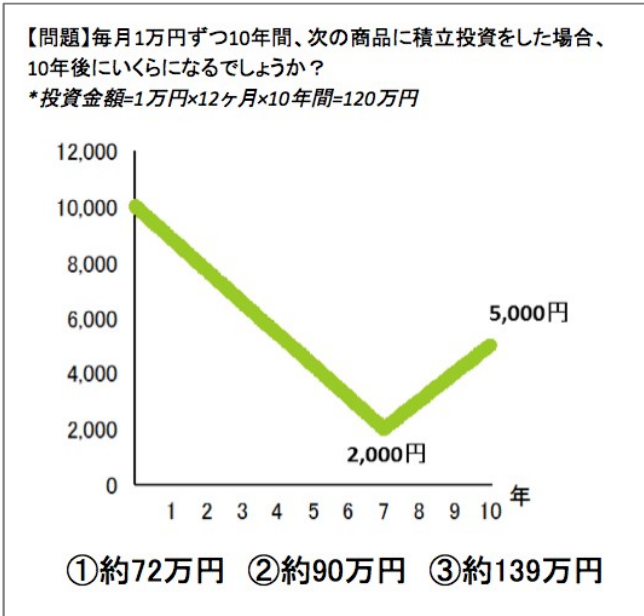
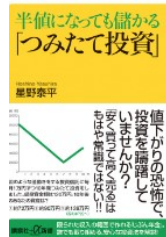


ドルコスト平均法協会  
代表理事 星野泰平



# ゲームを始める前の準備

このゲームを利用する前に、必ず「投資の成績=量×価格」を説明して下さい。  
 「平均買付単価」ではなく、「投資の成績=量×価格」で理解して  
 もらうのが、非常に重要です。星野式ドルコスト説明法については、  
 ドルコスト協会が発行している小冊子や、星野泰平の著作物をご覧ください。



## 投資の成績 = 量 × 価格

手元に入のお金 = 350個 × 200円  
 70,000円

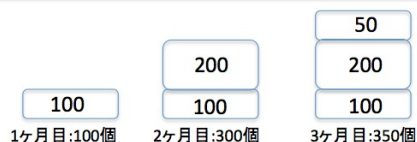
ポイント① 「量」の意識を持つ

- 投資をするのは、リンゴを買うのと同じ
- スーパーで、1個100円のリンゴを1万円分買うと100個買える
- 値段が100円の株を1万円分買うと、100個買える

ポイント② 毎回、買える量が変わる



ポイント③ 買った量を積み上げていく



「量」の3ステップ



# 【1】高木さん (sample1) プレゼン STEP1

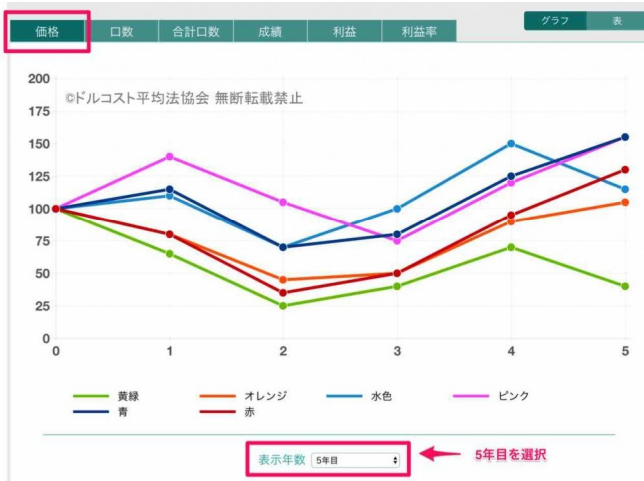
じぶん年金ゲームで、一番大切な初期設定プレゼン (高木さん・金融機関の方はsample1)のプレゼン方法を解説します。  
 初期設定プレゼンは、3つのステップに分かれます。  
 STEP1の目的は、「値下がりのメリット=量を買ひ込める」を理解してもらうことです。

## 5年目:基本の確認 (量×価格)

まず、簡単にルール説明をしてから入ります。

このゲームは架空の商品に、毎年1万円ずつドルコストをしていきます。  
 20年間で20万円を積み立てて、その成績を予測するゲームです。  
 まずは、5年目からみていきましょう！

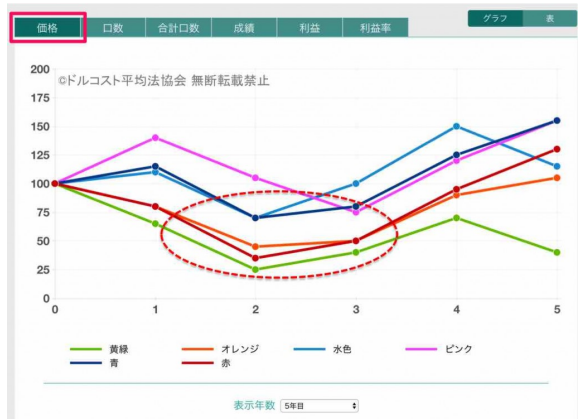
まず、最初に5年目を表示します。「価格」のグラフを見せながら、「一番、成績がいいのは何色でしょう？」とクイズを出します。  
 5年目は慣れてもらうためのウォーミングアップですので、答えを見せる前に、「答えは赤色ですよ。」と先に教えて大丈夫です。



正解は「成績」を押します。5年目、赤色が1位になりました。



そして、「赤色は、どんな値動きだったでしょうか？」と聞いて、もう一度、「価格」タブに戻ります。価格の動きを見せながら、赤色が1位になれた理由を説明します。



$$\text{投資の成績} = \text{量} \times \text{価格}$$

5年目は、基本の確認です。「赤が最初に下がって「量」を買ってから上昇したので良い結果が出ました」と軽く確認する程度でいいでしょう。

### よくあるミス・注意点

5年目は、このツールに慣れてもらうためのウォーミングアップなので、サクッと説明してください。

合計口数のタブを見せたり、細かい説明は不要です。ここで時間がかかると、sample1プレゼンに非常に時間がかかってしまいます。

「価格」→「成績」→「価格」だけ見せて、サクッと10年目に進みましょう。

# 10年目：一番重要なポイント=9年目の黄緑

**重要！**

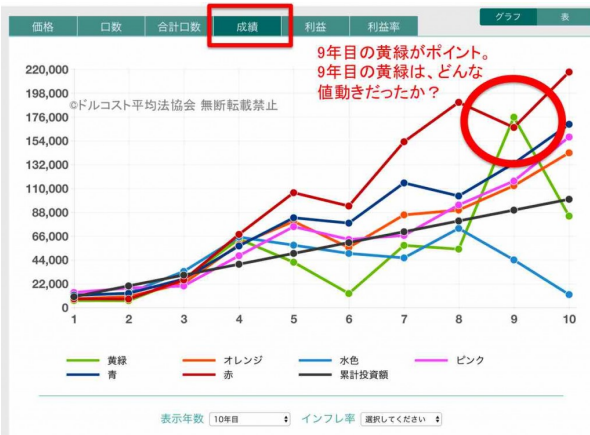
高木さん (sample1) プレゼンで一番大切なのが**10年目のプレゼン**です。5年目と同様、価格を見せて「今度は何色が一位でしょう？」と考えてもらいます。「量」の意識を持っている人が多いので、オレンジと考える人が多いです。正解を見せる前に、「赤色が正解です。」と答えを教えてOKです。



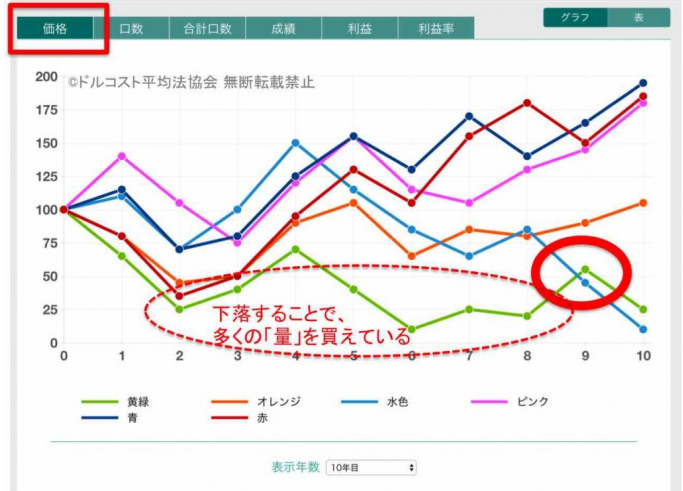
10年目の「成績」を表示します。答えは「赤色」でした。



1位は「赤色」でした。しかし、10年目のポイントはここではありません。10年目のポイントは、**9年目の黄緑**です。お客様に、9年目の黄緑を指で示しながら、「**ここ、見てください。黄緑が9年目に一気に上昇して、1位になってますね。9年目の黄緑は、どんな値動きだったか覚えてますか？**」と質問します。ほとんどのお客様は9年目の黄緑の動きを意識してなかったので、わかりません。そこで、「価格」に戻り、答えを見せます。



「価格」のグラフを見せると、お客様は9年目に黄緑が少し上昇しただけで、1位になったことがわかります。お客様に、「なぜ9年目に黄緑がわずかに上昇しただけで1位になったかわかりますか？」と聞きます。答えは「量」です。この9年目の黄緑の説明をすることで、お客様の中で、「量」の意識が深く強くなります。



ここで「合計口数」のタブを見せます。すると、黄緑が多くの「量」を買っている様子が見えます。



10年目のプレゼンは、9年目の黄緑を説明することが最大の目的。ここで「量」の意識が落とし込めます。

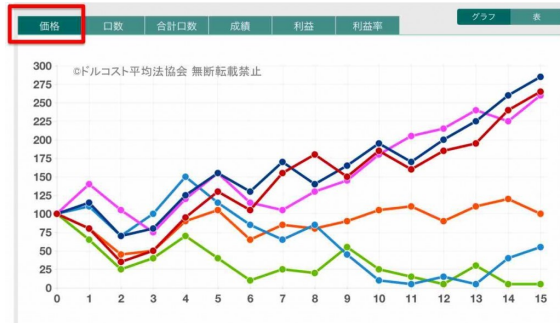
10年目で「量」の意識が、かなり強くなる

投資の成績 = **量** × 価格

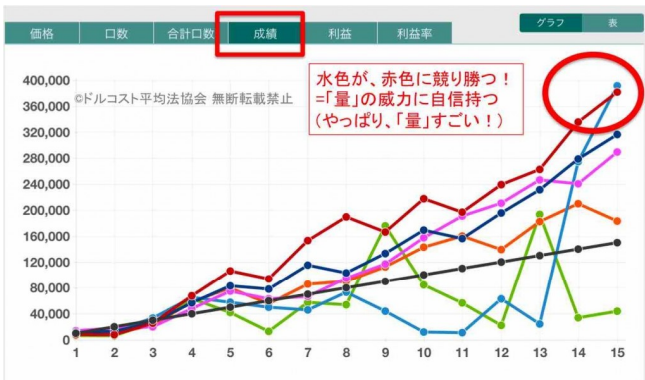


## 15年目：一番の盛り上がりポイント： →「量」の意識が固まる

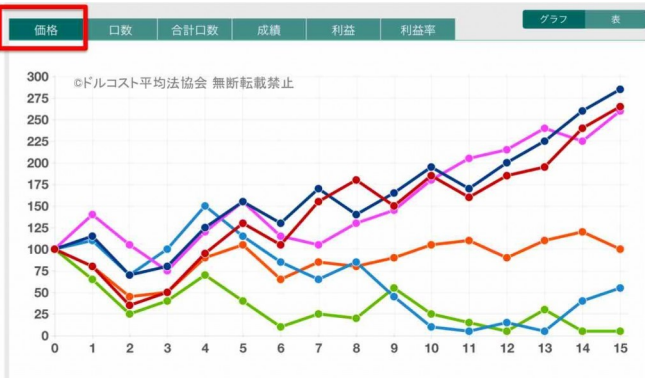
次は15年目です。15年目は一番盛り上がるポイントです。先ほど同様に、どれが一番儲かるか考えてもらいます。一番人気は水色です。ただ、「騙されないぞ」など警戒したり裏を読む人(ほぼ男性)は、赤や青を選びます。



正解は、「水色」でした！  
赤色を僅差で水色が抜いています。お客様は、「やっぱり「量」はすごいんだ！」と「量」の威力を再認識して、自信を持ちます。



もう一度、「価格」を見せて整理します。  
「これだけ価格差があっても、水色が勝つ原因は何ですか？」と質問して、お客様の「量」の意識を強くして行きます。



5年目で「量」の効果を確認し、10年目で「量」の威力を実感しています。そして、15年目で「量」の威力を確信してもらいます。

15年目で「量」の意識ががっちり  
固まって、「量」のファンになる

$$\text{投資の成績} = \boxed{\text{量}} \times \text{価格}$$

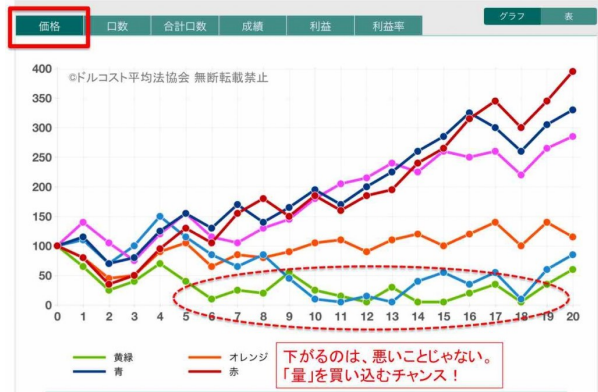
15年目で「おお！「量」の力はすごいね！」と言ってもらイメージ。10年目より、さらに感情が動く

## 20年目：「量」の威力を最後に確認

最後の20年目です。20年目は「量」の意識の確認作業でサプライズはないので、説明を簡略にするため、1位は黄緑、2位は水色と先に教えてOKです。



もう一度、公式を見せながら「量」の視点を確認してもらいます。15年目までは感情が動いて盛り上がるのですが、20年目は違います。「やっぱり「量」は凄いんだ！」と確認してもらおう作業なので、落ち着いて考えてもらいましょう。



20年目は「量」の威力の再確認。  
「量」への信頼がより強固になる

$$\text{投資の成績} = \boxed{\text{量}} \times \text{価格}$$

20年目は驚いてもらうのではなく、「再確認」させて、心を落ち着かせるイメージ。高ぶった感情を落ち着かせる。



## 高木さん (sample1)プレゼン:STEP1 まとめ

目的:量の意識をしっかりと理解してもらう

5年目

基本(投資の成績=量×価格)の確認

・「ふむ」

投資の成績= 量 × 価格

10年目

9年目の黄緑が最大のポイント

・「量を買うとすごい！」

投資の成績= 量 × 価格

15年目

15年目が一番の盛り上がりポイント

・「おお！量の力はすごい！」

投資の成績= 量 × 価格

20年目

20年目は確認作業

・「量の力がすごいのがわかった」

投資の成績= 量 × 価格

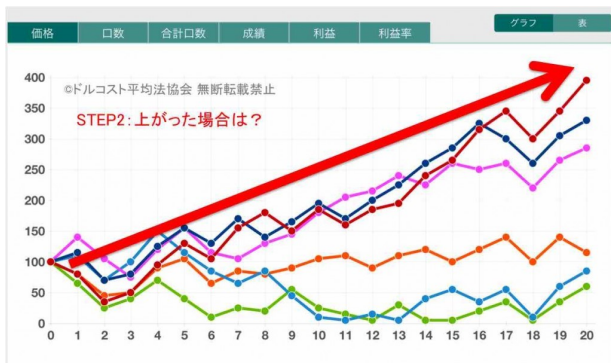
# STEP2 シーソーの関係

高木さん (sample1) プレゼンのSTEP2で、シーソーの関係を伝えます。

重要！シーソーの関係をきちんと図解して説明できるようにしよう

## (1) 上がってもOKを説明する

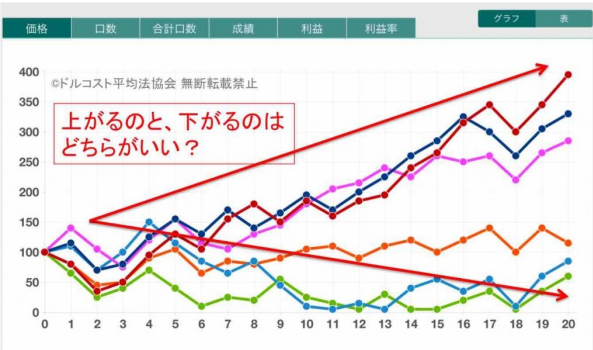
高木さん (sample1) プレゼン前半では、繰り返し「下落しても構わない」「下落のメリット」を説明しました。すると、お客様は「ドルコスト平均法は上がったってダメなのかな？」と疑問を持ちます。そこで、後半は「値上がりした場合」について説明します。お客様に「赤色や青色は順調に上昇してるけど、どうなると思いますか？」と質問します。



正解は赤も青もきちんと利益が出ています。



ここで、お客様に「ドルコスト平均法は、上がった方がいいのでしょうか？下がった方がいいのでしょうか？」と質問をします。ここでお客様は悩みます。



正解は「どちらでもいい」と答えます。

答え: どちらでもいい

## (2) シーソーの関係を説明する

そして、ドルコスト平均法の公式で、シーソーの関係を説明します。

・「価格」が下がると、買える「量」は増えます。「量」が増えるので、「価格」が少し戻ると利益が出やすいです。

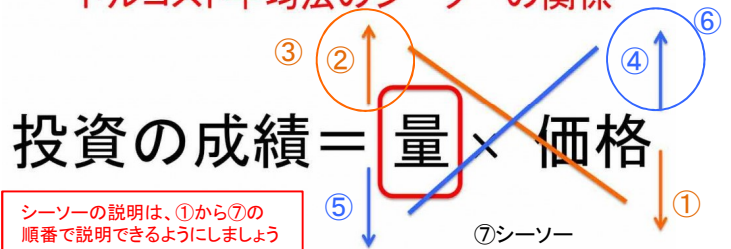
・「価格」が上がると、買える「量」は減ります。そもそも投資において「価格」が上がることはいいことなので、これでも利益は出ます。

「量」と「価格」は、シーソーの関係で、どちらかが上がれば、もう一方は下がります。

多くの人は「量」をみてないので、誤解していますが、ドルコストの場合、上がったも下がっても、あまり気にしないでいいのです。大切なのは続けることです。

それと、最終的には上昇してほしいので、中長期的に「価格」が成長が見込める資産に積み立てることが大切です。

### ドルコスト平均法のシーソーの関係



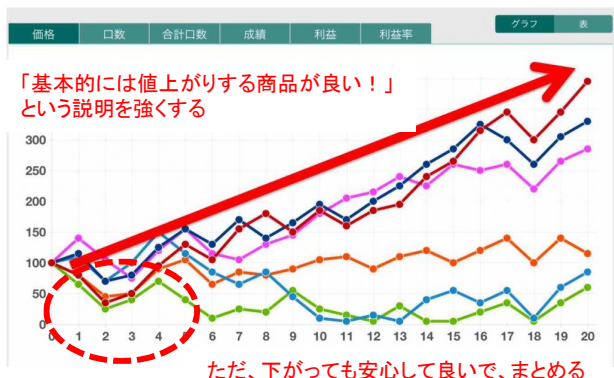
ただし、「どちらでもいい」で終わってしまうと、お客様はどうすればいいのかわからなくなるので、次の様に続けます。

『基本的には「きちんと良い成績が期待できる商品を選びましょう。その方が黒字が続くので、より安心して続けやすいからです。」

ただ、どんなにいい商品でも、始めるタイミングによっては、●●ショックなどで大きく下がる可能性があります。

しかし、ドルコストなら、それでも気にせず、安心して続けて良いのです。理由は下がれば「量」を買えるからです。』

この様に、基本は上昇していく商品を選ぶが、下がってもOKとフォローしておきます。



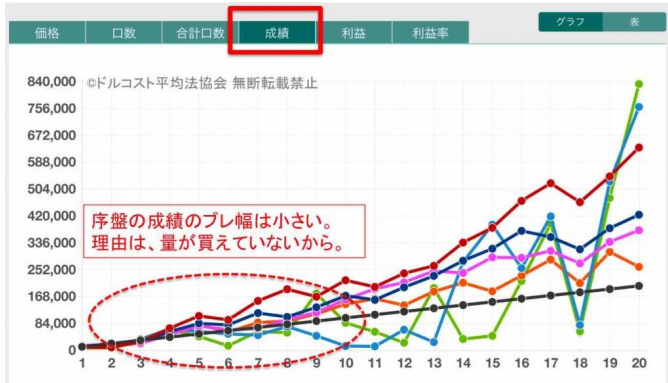
# STEP3 早く始めるのが重要！

高木さん (sample1) プレゼンのSTEP3で、早く始めるのが重要！と伝えます。

**超重要！今すぐ始めるべき理由を  
しっかり教えよう！**

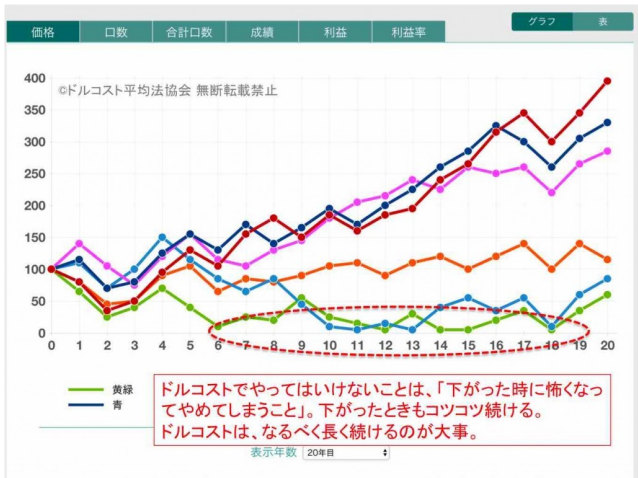
## (1) 始めるタイミングは早い方が良い

シーソーの関係で、「細かい値動きを気にしても意味はない」ことを説明しました。そこから**始めるタイミング**について、話を移します。「成績」のグラフを見せて、**序盤の成績のブレ幅が小さい**ことを伝えます。



## (2) 下がっている時に途中でやめてはいけない& 終盤はブレ幅が大きくなるからリバランス

次に、「ドルコスト平均法の途中で下がっている時に辞めてはいけない点」も説明しましょう。ドルコスト平均法は万能ではありません。「価格」が下がっている時は、「量」を買い込むチャンスですが、「成績」は赤字になることもあります。その時に辞めてしまうと、非常に残念な結果になります。大切なのは「早く始めて、長く続けること」を説明しましょう。



ドルコスト平均法では序盤・中盤の「成績の変動幅」は小さくなる理由は、序盤は「量」が溜まってないからです。いくら価格が変動しても、「量」が溜まってないので、投資の成績に与える影響は少ないのです。20年・30年と行った場合のことを考えると、序盤の成績の変動幅など気にする必要はありません。

ドルコストを始めた頃は、投資金額も少ないので、買えている「量」が積み上がっていない

投資の成績 = 量 × 価格

ここでも「誤解」を説明します。ほとんどの人は「投資を始めるタイミングが重要」と誤解しています。それは「量」の視点を持ってないからです。ドルコストは始めるタイミングは重要ではないと説明します。

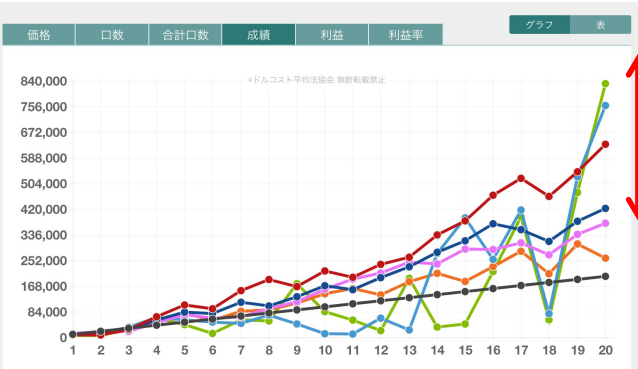
だからこそ、ドルコストを始めるなら、なるべく早くやった方がいい！と強く言い切ります。

金利で増やすのは非常に厳しい時代になりました。これからは海外の人たちと同じように、ドルコストで「量」を増やしていくのが重要です。

「価格」は確実に上がるとは言えませんが、「量」は確実に積み上がります。ドルコストをするなら、早く始めた方がいいのです」と今すぐ始める理由を説明します。



また、「量」が積み上がった終盤は成績のブレ幅が大きくなります。終盤は様子を見ながら、安定運用に切り替えるリバランスなども説明しましょう。また、その時に相談相手が大切なので、アドバイザーの価値を伝えましょう。



## 高木さん (sample1)プレゼン: STEP2、STEP3 まとめ

目的: 値動きはあまり気にしないでいい  
→早く始めた方がいいにつなげる

(1) 赤や青で「上がっても良い」と伝える

(2) 上がっても、下がっても良い! →シーソートーク

- ・基本的に上昇が期待できる商品の方がより良い!
- ・しかし、下がってしまっても気にせず続けられれば良い

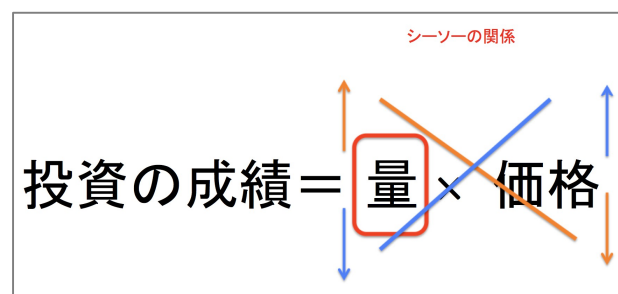
(3) 始めるタイミングは早い方が良い

- ・クロージングに向けて強くなんども言う

(4) 下がってる時に辞めてはいけない

(5) 終盤のリスク管理は重要

- アドバイザーが必要



初期設定プレゼンで、「日本人が持っている3大誤解」を全て解くことができる

① 下がったら損をする

→それは誤解! STEP1で解説。「下がる=量が買える」

② 投資の成績は、商品の成績で決まる

→これも誤解! STEP2で解説。「投資の成績」は、「商品の成績=価格の値動き」だけでは、決まらない。量と価格の掛け算で決まるし、それはシーソーの関係。

③ 投資を始めるタイミングが重要

→これも誤解! STEP3で解説。ドルコストを始めるタイミングは全然重要でない。「量」を貯めて行くなら、なるべく早く始めた方が良い!

→誤解を解くと、「知らなかった」「友達や従業員に教えてあげよう!」となる



# オプション1. 赤青プレゼン:ドルコストの深さを伝える

## (1) 赤と青は似ているが...

赤青プレゼンとは、初期設定の赤と青を残してプレゼンする方法です。



赤と青の値動きを見せます。  
この2つは値動きが非常に似ていますが、どちらが儲かるか質問します。



正解は赤です。  
ここでのポイントは、赤が青の約2倍も利益が出ている点です。



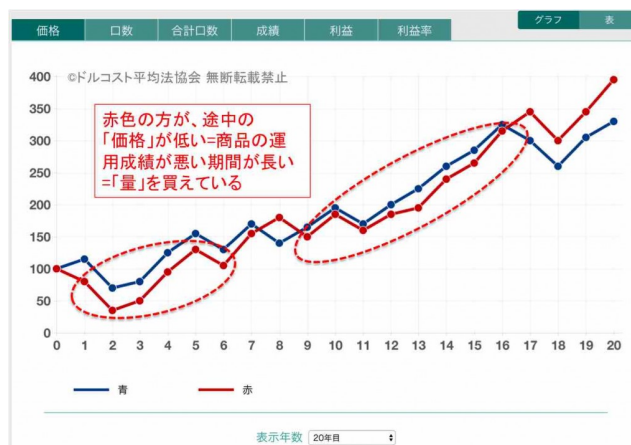
赤が青の2倍利益が出ていることを視覚的に説明するために、指できちんと示してあげましょう。  
数字で見せたい方は、「表」の「利益」タブを押して20年目を比較します。

表>利益タブを押す

商品名	青	赤
4年目末	16,875円	27,545円
5年目末	32,925円	56,080円
7年目末	16,000円	31,765円
8年目末	45,090円	83,140円
9年目末	23,040円	109,540円
10年目末	43,155円	76,350円
11年目末	69,260円	117,560円
12年目末	46,230円	86,800円
13年目末	75,600円	119,205円
14年目末	101,300円	132,665円
15年目末	138,720円	195,520円
16年目末	166,350円	231,600円
17年目末	212,125円	305,570円
18年目末	182,800円	350,950円
19年目末	134,340円	281,700円
20年目末	190,330円	352,340円
20年目末	222,400円	432,395円

表を見て、数字で確認しても良い

もう一度、「価格」を見せます。  
これだけ似ていて、2倍も利益に差が出るとは予想もしなかったはずですが、そこで、解説をします。  
まず、赤色の方が途中の「価格」が低い期間が長いです。  
つまり、赤色の方が「運用商品の成績が悪い期間が長い」ということです。



注意点は、「商品の成績が悪い方がいい」とは言わないことです。  
あくまで、「商品の成績が悪くても構わない」というメッセージにしましょう。  
そして、「商品の成績が悪くても、心配しないで続けていくことが大事」と伝えましょう。

## 【2】初期設定クイズについて

セミナーや面談ですぐに使えるクイズを登録してあります。このパターンは、これまでの実践の中で反応が良いものを選びました。

また、順番も目的に沿って並んでいます。基本的にはクイズ1,2,3まででOKです。

クイズ5は、金融機関150人・170人が連続全員不正解になったパターンなので、クイズ2の代わりに使ってみてください。

クイズを3問出して、何問正解できるかを競うと盛り上がりしますのでオススメです。

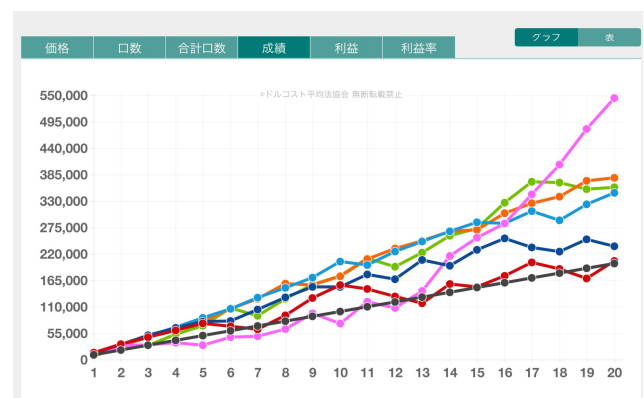
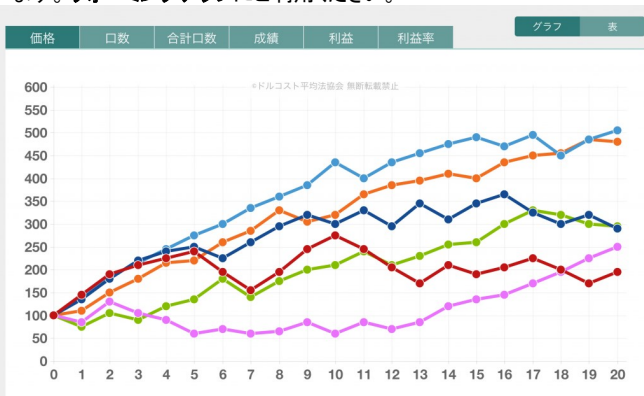
### クイズ1: 値下がりか勝つパターン (目的=お客様に自信を持ってもらう)

正答率: 95%

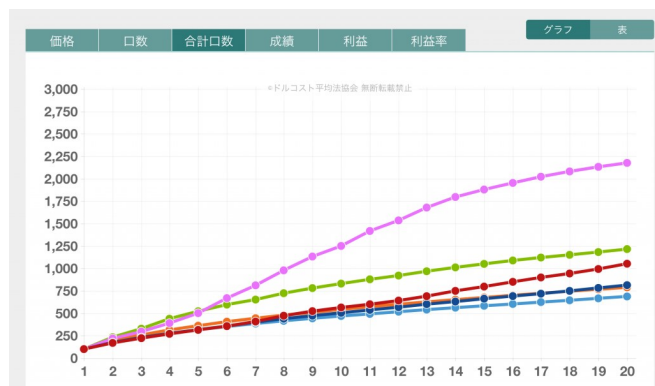
まず、クイズ1です。

これは「値下がりのメリットを再確認するため」に使います。

簡単なので大体の方は当てます。当ててもらふことで、自信を持ってもらいます。ウォーミングアップにご利用ください。



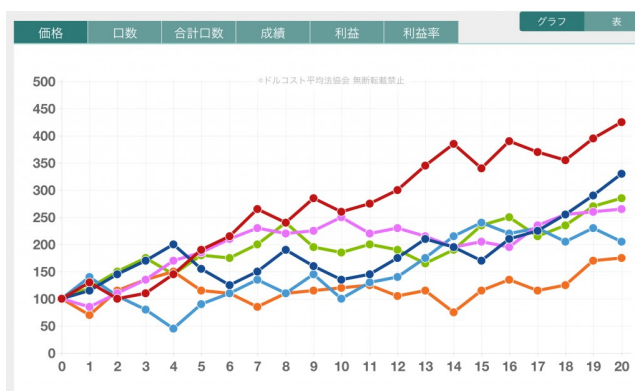
もっとも値下がりしているピンクが一番上になるので、「ドルコストの値下がりのメリット」をシンプルに説明しやすいクイズです。「量」を確認しても、ピンクが一番買い込んでいるのがわかります。



### クイズ2: 値上がりか勝つパターン (目的=上がってもいい！)

正答率: 5%

高木さん、クイズ1で「量」の視点をしっかり教育したら、次にクイズ2を出します。クイズ2は、価格が上昇する赤が勝つパターンです。

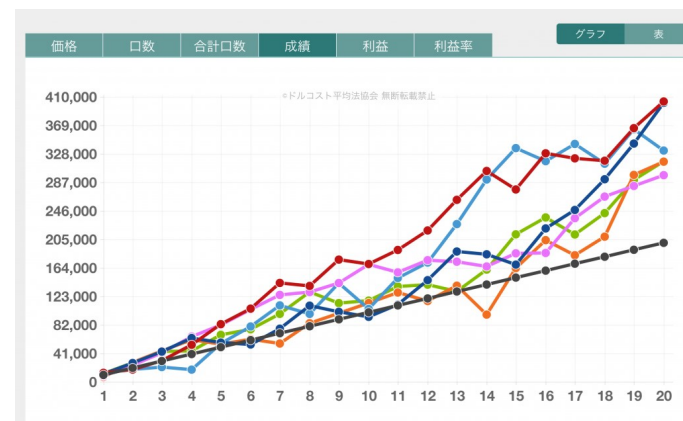


ここで、大半の人が間違えます。

それまで「量」の視点をしっかり意識させているので、ほとんどの人は水色やオレンジに手を挙げます。

しかし、赤色が勝ち「え？なんで？」と驚かれます。

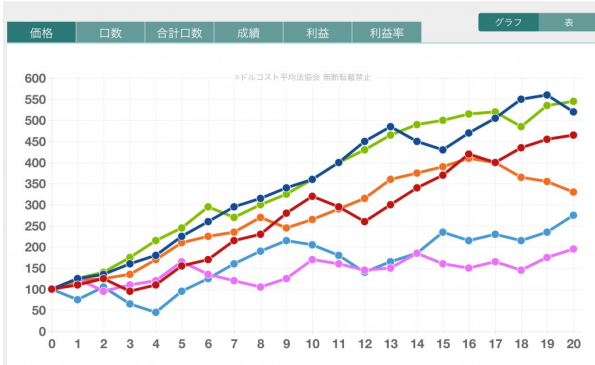
クイズ2をしたら、改めて「シーソーの関係」を説明して、「上がってもいいこと」を説明します。



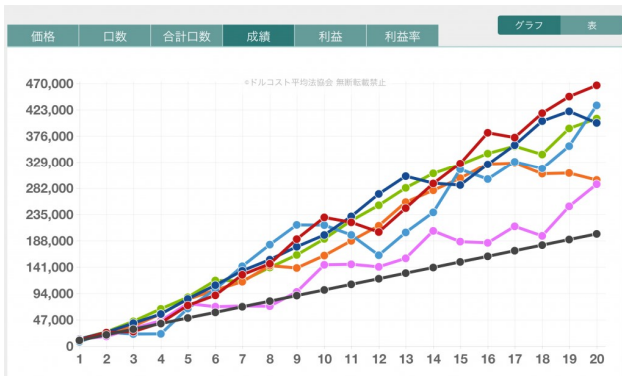
## クイズ3:真ん中がかつパターン (目的=真ん中でもいい!)

正答率:10%

クイズ1で「下がっても良い」、クイズ2で「上がっても良い」をした  
ら、クイズ3を出します。  
クイズ3は、「真ん中でも良い」です。



「量」と「価格」のバランスが良い赤色が勝ちました。



投資の成績 = **量** × 価格

↑ バランスよく高くてもOK! ↑

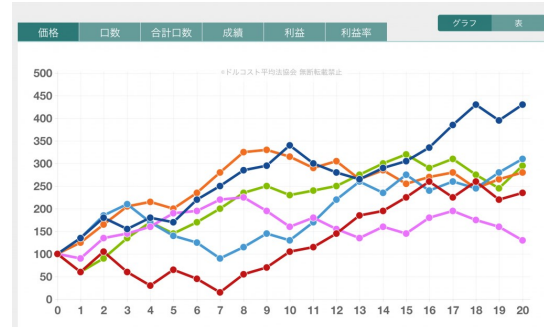
- ・クイズ1は、「量」を買い込んで勝つパターン
- ・クイズ2は、「価格」が上がって勝つパターン
- ・クイズ3は、「量」と「価格」のバランスがよく勝つパターン

このクイズ1,2,3の3ステップで、「ドルコストで大切なことは、短期的な上下ではなく、中長期的に成長すること」をしっかりと教育できますので、お客様に試してみてください。

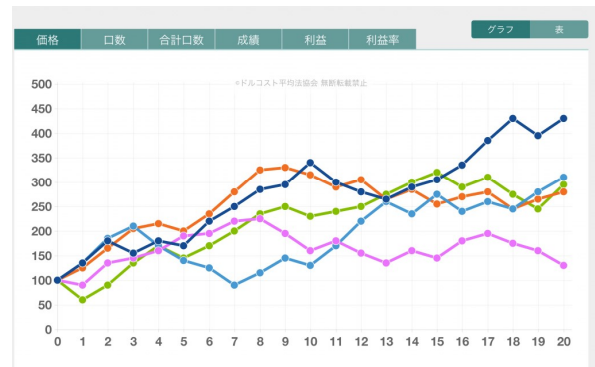
## 応用編:クイズ5 (クイズ2の代わり:上がっても勝つパターン)

正答率:3%

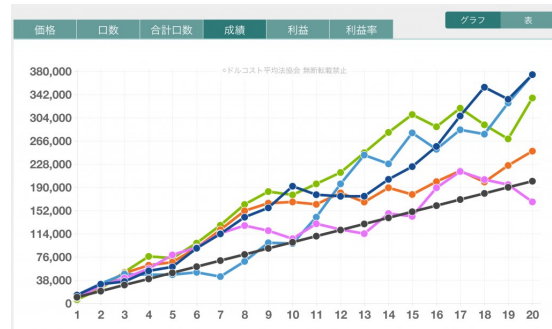
クイズ5は、金融機関の職員150人・170人が全員外したパターンです。  
クイズ2の代わりに使えば、効果は抜群です。  
ただ、2点注意点があります。



注意点1は「赤は非表示にする」です。赤があると簡単なので、非表示にします。注意点2は「金融機関の人が全員外した等は先に言わない」です。難しいと言うと、裏を読む人がいるからです。



こうすると、一番人気は下落が目立つ水色、2番目が最初に下がっている黄緑になります。しかし、正解は青色で、ほぼ外します。



商品名	単位	オレンジ	黄色	水色	青
1年目	プレイヤー1	プレイヤー2	プレイヤー3	プレイヤー4	プレイヤー5
4年目	76,840円	62,350円	46,500円	56,640円	53,100円
5年目	74,095円	67,400円	46,900円	79,230円	59,670円
6年目	86,000円	90,945円	50,720円	91,650円	90,200円
7年目	127,900円	125,400円	43,740円	114,620円	113,750円
8年目	161,910円	151,490円	68,600円	127,350円	141,075円
9年目	183,000円	164,010円	96,180円	118,950円	156,350円
10年目	177,560円	166,005円	97,800円	105,760円	191,760円
11年目	195,600円	162,110円	141,100円	130,320円	177,900円
12年目	214,250円	160,865円	180,580円	125,900円	175,260円
13年目	246,675円	165,890円	242,540円	114,075円	175,430円
14年目	279,900円	189,240円	226,420円	147,040円	203,000円
15年目	306,120円	178,245円	279,125円	142,380円	223,670円
16年目	286,130円	199,260円	252,240円	189,180円	256,945円
17年目	318,615円	217,000円	284,190円	215,860円	306,840円
18年目	292,320円	198,065円	271,090円	202,650円	303,880円
19年目	269,250円	225,780円	348,340円	194,400円	334,170円
20年目	336,300円	249,200円	374,600円	166,140円	374,530円

青と水色が重なって見えますが、細かい数値は表で確認できます。



# [3]ランダムゲームのポイント

高木さん (sample1) プレゼンで、基本を説明したら、お客様と一緒にランダム・ゲームで盛り上がりましょう。  
ゲームはランダムで行うと一番盛り上がります。お客様と一緒に初めてみるグラフを見ながら考えるので、一体感が出ます。  
この臨場感は、あらかじめ設定してあるクイズの場合と全く違います。セミナーなどでは、正解した人に粗品などつけるとより盛り上がります。

## (1) ゲームの始め方



ゲーム運営画面で、「ランダム入力ボタン」を押せば、ワンタッチで次のゲームが表示されます。

ただし、初期設定されているケースの場合は、上書き防止のためランダム入力できません。左のサイドバーから新規ゲームをスタートしてください。

## (2) ゲームの保存の方法



面談やセミナーで面白いパターンが出たら、保存しておきましょう。後で呼び出すことができます。名前をつけた後、ランダム入力ボタンを押すと上書きされてしまうので、気をつけてください。名前をつけた場合は、次のゲームは新規スタートしてください。

## (3) おすすめのゲーム方法

- ①粗品をつける  
ゲームは粗品がつくと、より盛り上がります。
- ②総得点を競う  
「ゲームを3問しましょう」と言い、一番多く正解できた人には「粗品」をつけます。と言うとよりゲーム生が増して盛り上がります。

## (4) ゲーム運営で重要なポイント

### ①面白いくないの(簡単なものなど)が出たら、すぐにランダムボタンを押して、他のパターンにしてOK!

→ランダムなので、何が出るかわかりません。すごく簡単だったり、変なものが出ることももちろんあります。その場合は、「これは簡単なので、他のにしましょう。ゲームなので楽しいにしましょう。」と言って、すぐにランダム入力をして次のパターンに行きましょう。

### ②運営者が外してもOK!

→「プロの担当者だから、外したら格好悪い」と思われる方もいますが、逆です。「プロでもわからない」ことをわかってもらえば、後は楽です。

細かい値動きを気にしたり、考えるより、中長期的に成長が期待できる資産(商品)を選んで、早くスタートすることを説明しましょう。

## (5) 「ゲーム」という言葉の力を使おう

ゲームという言葉は非常に強力です。  
「ゲーム」という言葉には「楽しい」というイメージが付いているからです。

「セミナーしませんか?」「勉強会をしませんか?」というより、「ゲームしませんか?」の方が簡単に興味を持ってもらえます。

また、「このゲーム3人いると盛り上がるんですが、お友達(同僚の方)呼んでくれませんか?」と声をかけるこのOKです。

また、ゲームを使いこなすと「確定拠出年金の継続教育」などにも強力なコンテンツになります。

職域でのゲーム大会なども企画してみてください。

また、フォローにゲーム大会をして、そこでドルコストを理解したお客様から追加のご契約をいただいたり、他の商品の契約に結びつけている方もいます。

まずは、少人数ゲームをコツコツと継続開催するのがおすすめです。そこから、ネットワークを広げて行ってください。

**\*ゲームサイト(<http://jbnkhelp.com>)に掲載されているインストラクターのインタビューも御覧ください**